

NEWS RELEASE

各位

2018年4月18日

ニッポンハム食の未来財団
平成30年度研究助成課題(全21件)を決定
～アレルギー疾患対策を推進～

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団(事務所:茨城県つくば市、理事長:山田良司)は4月18日(水)、平成30年度の研究助成課題(全21件)を公開しました。

平成29年3月に厚生労働省が発表した「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針」の中で、アレルギー疾患に関する研究推進に関して今後取り組みが必要な事項が示されるなど、「アレルギー疾患対策」として具体的な研究の進展が求められています。

本研究助成は、対象領域を「アレルギー疾患」の中の「食物アレルギー」に特化しているのが最大の特徴です。根本的な治療法や予防法などが確立されていない現状を打開し「食物アレルギー」でお悩みの方にも「食べる喜び」を提供することを目指しています。助成区分として「共同研究助成」と「個人研究助成」の二区を設け、前者は異分野(例:医学と食品)研究者の協働による「食物アレルギー」の問題解決を、後者は「食物アレルギー」の問題解決にチャレンジする若手研究者の育成を狙いとしています。

当財団として三回目の公募となる平成30年度研究助成事業では、両区分合わせて63件の応募の中から21件を選出し、総額6,304万円の助成を実施します。

当財団ではこれからもすべての人に「食べる喜び」を提供するための一助となることを願い「食物アレルギー」の研究推進を支援して参ります。

平成30年度 研究助成先一覧(次のページへ続く)(敬称略・50音順)

【URL】 https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2017/02_result.html

■(A)共同研究助成先(6件、助成金合計3,499万円)

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	北浦 次郎	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 先任准教授	抑制型受容体に着目した食物アレルギーの予防・治療法開発
2	常山 幸一	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 疾患病理学分野 教授	経皮感作による甲殻類アレルギーモデル動物の作成とプレバイオティクス投与による予防効果の解析
3	松永 佳世子	藤田保健衛生大学 教授	魚アレルギー免疫療法を見据えた複合的低アレルゲン化コンポーネントの開発
4	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発
5	村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断マーカーの応用と診断キットの開発
6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω -5グリアジン欠損食用小麦の開発: ω -5グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて

※リリースに関する問い合わせ先
公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 沖浦・川澄まで

平成30年度 研究助成先一覧（続き）（敬称略・50音順）

■(B)個人研究助成先（15件、助成金合計2,805万円）

	氏名	所属機関	課題名
1	伊藤 靖典	富山大学医学部小児科 助教	食物アレルギー児の食事指導における葛根湯併用の耐性誘導獲得効果の検討
2	上番増 喬	徳島大学大学院医歯薬学研究部 予防環境栄養学分野 特任助教	母親の腸内環境が胎児の出生後の食物アレルギー発症に及ぼす影響の解析
3	岡田 祐樹	昭和大学医学部小児科学講座 助教	新入大学生を対象とした成人食物アレルギー調査研究
4	倉島 洋介	東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター 特任准教授	経口免疫療法によるエフェクター細胞の形質変化の誘導機序の解析
5	黒谷 玲子	山形大学大学院理工学研究科 バイオ化学工学部 准教授	新規生理活性物質 SCGB3A2 の食物アレルギー改善薬としての検証
6	小西 瑞穂	国立成育医療研究センター 研究所 研究員	心因性食物アレルギー形成の解明と寛解プログラムの作成 ー食物アレルギーの真の寛解へー
7	小林 征洋	国立大学法人東京海洋大学 助教	魚類アレルゲン(パルプアルブミン)のデータベース構築に向けた基礎的研究:多魚種にわたる魚類アレルゲン含有量および免疫化学的性状の解明
8	佐藤 陽	いわき明星大学 薬学部 准教授	新規アナフィラキシー治療薬の開発ービオチニル化ペプチドの有効性評価ー
9	杉浦 至郎	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長	急速経口免疫療法後に残存する運動誘発症状の機序に関する検討 ー生体内における好塩基球活性化の可能性ー
10	高木 秀明	宮崎大学医学部医学科感染症学講座 免疫学分野 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の有効性の検証と作用機序の解明
11	谷田 守	金沢医科大学 医学部 生理学Ⅱ講座 准教授	アナフィラキシー低血圧時の交感神経興奮を惹起する脳内機構の全容解明
12	中島 陽一	藤田保健衛生大学医学部小児科 講師	低アレルゲン化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
13	八木 久子	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 小児科学分野 医員大学院生	新生児・乳児消化管アレルギーの診断にむけた革新的検査法の開発
14	吉岡 靖雄	大阪大学 微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト 特任准教授	独自の機能性ペプチドを用いた食物アレルギーに対する根治療法の開発
15	吉川 宗一郎	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 免疫アレルギー学分野 助教	新規脱顆粒インディケーターを用いたアレルゲン検出システムの構築とその応用

平成30年度 研究助成事業概要

■目的

食物アレルギーに関連する知見獲得、問題解決を目指す研究者及び研究グループに対して研究助成金を交付し、研究開発の推進を通して、食物アレルギーに関わる環境改善に寄与することを目的としています。

■研究期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

■成果報告会

平成31年10月頃実施予定

■助成金額等

平成29年7月14日から9月30日の期間に公募を行ない、研究助成審査委員会による厳正かつ公正な審査の後、理事会で決定しました。応募総数は63件、採択数は21件、助成金総額は6,304万円です。

<内訳>

- 共同研究 助成件数：6件（応募件数24件）、助成金合計3,499万円
- 個人研究 助成件数：15件（応募件数39件）、助成金合計2,805万円

■ご参考まで（過去2年（平成28、29年度研究助成）の総計）

- ・助成件数：44件
- ・助成総額：1億2,010万円

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 概要

すべての方に「食べる喜び」を感じて欲しいという強い思いから平成27年1月に日本ハム株式会社により設立され、平成29年4月には内閣総理大臣より公益法人としての認定を受けました。「食物アレルギー」領域に特化して、研究助成と啓発活動を行なっています。